

二〇一五年度 一般一月入学試験

国 語

〔注意事項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は27ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

第一問 次の文章は大正十五年に発表された網野菊『光子』の一節である。今年二十二歳になる光子は寮に住んでおり、八歳の時に父の後妻となった義母とは別居している。義母は、光子にとっては異母弟妹にあたる幼い自分の子供達と暮らしている。これを読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

光子は其日曜日母と白木屋へ買物に行く筈になっていたので午前中に寮を出ようと思っていたのが、丁度向いの部屋に居る人が病気で帰国することになって其支度の手伝いや何やらでおそくなり、自宅に行った時にはもう午後になってしまった。大體、前の週に母と一緒に買物に行く筈だったのが、「どうせ、お母さんはお昼すぎから出かけると云うだろう。」と(1)をくくつて寮から家へやって来た所、「もう、おそいから行かない。」と云われ、買物行はオジャンになった。今日出かけることになったのも、実はそのための出直しであったのである。

「ひよつとすると、今日も行かないと云われるかも知れない。」

光子はそう思い、二度も母に待ちほけをくわせるような結果になったのを悔いながら、寮を出たのであった。母が平常外出をきらつて家に引込み勝ちなのを気の毒に思つて、なるべく気を晴らす機会をつくつて上げたいと考えていた所だけに、光子には、そんなにおそくなつたことが心苦しかった。以前の光子ならば、買物なら買物に行くときままっている場合、母が「行くのはやめよう。」とでも云い出そうものなら、無闇にプリプリしたものであった。けれども、光子も此頃は大人になった。それで、先日折角買物をあてに家に帰つて母に「やめる。」と云われた時にも、素直な気持ちで「そうですか。」と云つて其儘寮に帰つて来た。(3)そういう心持ちが持てるようになったことは光子にとつて喜ばしかった。何にでも諦めを持つという態度——それはズーツと以前から光子が求めていたものであった——が持ち得られるようになったということは喜ばしかった。尤も、其処からまた、万事

に深い興味が持てなくなったという淋しきを感じないではなかったが。今も、「買物に行く。」ということだけならば、光子にとつてはどうでもよかつたのであつた。殊に、今日は光子のものを買いに行くところからハッキリきめてあつただけに、それはどうでもよいことであつた。が、それを機会に母のものを買わせる、母の子供のものを買わせるということを楽しみにしていたので、その楽しみが⁽⁴⁾ ブイになることがつまらなかつた。それは光子が孝行だからというわけでは決してなかつた。反つて、それは、光子だけが好き勝手な生活をしているということになるのを恐れる⁽⁵⁾ ため、義理ある母になるべく気持ちよく日を送つて貰いたいという、一種の利己心からであつた。

光子が家に着いた時は二時近くなつていた。母は三畳の部屋で縫物をしていた。その、スツカリ (6) をすえた不斷着のままの姿を見ると、光子は「ああ、今日も⁽⁷⁾ ダメだな。」と思つた。それにもう、子供達が⁽⁸⁾ ヨウチエンから帰つて来るのに間がなかつた。

「すみません、もっと早く来るつもりだつたのですが。」

光子は、結い立ててらしい母の髪を見ながら、わびた。

「もう、おそいから来ないのかと思つた。」と母は云つた。其調子には少しも不平らしい気持ちが見えなかつた。光子は安心してた。

「どうしますか？ 行きますか？ それともやめましょうか？」

「だつて、今日行かないと、また自分お前は来ないだろう？ そうするとお前の着物や帯が春までに間に合わないじゃないか。これで来月になると、ぐつとおしつまつて、仕事をしてくれる人だつて忙しいだろうから。」

母は機嫌よく立つて縫物を片づけはじめた。其母の態度は光子の心に気持ちよくうつつた。そして、もっと早く来ればよかつたと再び悔いられた。

出がけに母は光子に、

「お前、黒いシヨールかい？」と訊⁽⁹⁾ねた。

「ええ。」と答えると、

「それでは、私は矢張り茶の方にしよう。この間のショールをかけて行こうと思ったが、それでは娘と同じになってみっともないから。」と持前のユーモラスな口調で云った。此間のショールというのは、光子が母の為にツイ先日あみ上げたものだった。

「いいじゃありませんか。大丈夫ですよ。」

「よすよすよ。また此次にして行くよ。」

そして母は矢張り茶のショールにした。

電車はこんでいた。おされおされて光子は車の中央に行つた。母は入口の所に吊り革につかまりながら外を見ていた。人ごみの中に居ることが何よりも嫌いな母の (9) をシヨウチして居る光子は、母が人におされて気持ちを悪くしはしないかと恐れて、チヨイチヨイそちらを振り返つた。併し、母は案外平気な顔をして外を見ていた。

(11) 「お母さんも大分変わったな。」と光子はヒョツと思つた。

やがて光子の立つて居る前の席があいた。光子は母をかけさせたいと思つた。が、声を出してよぶという事は、恥ずかしがりやの光子には出来なかつた。それで、一と先ず腰を下ろして、母の方をジーツと見ながら、母がこちらを向くのを待っていた。けれども、母は一寸も光子の方を見なかつた。そのうちに母のそばの席があいて母は腰を下ろした。

須田町で乗り換えて品川行の電車に乗ると、其電車もまたこんでいたが、二人は一緒の所に立つて居た。

(12) 白木屋では、買物らしい買物もしないで居るうちに日がくれてしまった。妹達のものか母自身のものか、ともかくも直接母の心をナグサめるようなものを母に買わせたいと願っていた光子の願いに反して、母は其日何も子供達のためにも自分のためにも買わなかつた。ひよいひよいと買いそうになつても、すぐ、「まあ、此次にしよう。」と云つては、やめた。

(13) 其度に光子は一旦乗り上がった波がまたズドンとくだけ落ちるような気持ちを感じた。

「これは私の運命について始終感じると同じ気持ちだ。」そんなことを思つて、しまいには例の諦めの気持ちになり、「どうでもお母さんのよいようにするがいい。」と考えるようになった。

「何事にもさからうまい。」光子は心の中でそう思いながら二階から三階へと母についてまわつた。食堂の前に出た時、母は、「何

か食べるかい？」と云った。

「ええ。」

二人は這入^{はい}つてお汁粉とおゾウ⁽¹⁴⁾ニを食べた。

「もつと何か食べるかい？ おすしでも。」と母は訊^きいた。そのやわらかい調子に光子は一才驚いた。

「いいえ、私は別に。お母さんは？」そう答えながら、同時に、「私も変わったな。」と心の中で思った。

「私はいいけれど、お前、おなかがすくといけないから。」と云つて、母はもう一度、「本統^{ほんとう}に欲しくないか。」と念をおした。

たまに外に出ると、「子供が待つて居るから。」とソワソワしてろくろくものなど落着^{おち}いて食べたことのない母から、こうして優しくくり返して云われたことは光子にとっては全く珍しく、嬉^{うれ}しかった。そしてまた同時に、自分が母から優しい言葉をかけられたのを意外に思ったということが淋しく感ぜられた。

(網野菊『光子』による)

(注) 白木屋——日本橋にあった百貨店で、日本の百貨店の中で初めて蕎麦^{そば}屋や汁粉店などの飲食店を併設した

問1 空欄番号

(1)

・ (6)

・ (9)

に入る語句として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ

一つずつ選びマークしなさい。

1

く

3

(1)
をくくって

- ⑤ カミ
- ④ クビ
- ③ ハナ
- ② タカ
- ① ハラ

(6)
をすえた

- ⑤ 膝
- ④ 腹
- ③ 腰
- ② 目
- ① 肝

(9)

- ⑤ 気質
- ④ 本気
- ③ 志向
- ② 品性
- ① 趣味

問2

傍線番号(2)・(4)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

4

・

5

(2) 気を暗らす

4

⑤ 腹立たしい気分をごまかす

④ 悲しい気持ちを和らげる

③ 心配なことを解決する

② 不信感を取り除く

① ふさいだ気持ち解消する

(4) フイになる

5

⑤ 後回しになる

④ おろそかになる

③ 苦痛になる

② むだになる

① 負担になる

問3 傍線番号(3)「そういう心持ち」とあるが、その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしな

さい。

6

- ① 普段から約束を破ることが多い母に対して、諦めとともに情けなく思う気持ち
- ② 母に対して、買物に行く約束を二度も破るような真似をしたことを申し訳なく思う気持ち
- ③ 土壇場で約束を反故ほんごにしてしまう母に対して、思わず怒りたくなるような気持ち
- ④ 母の気まぐれを受け入れられるように、あらゆる物事について諦めを抱いて接する気持ち
- ⑤ 外出を嫌うあまり、家に引込み勝ちになつてしまった母を気の毒に感じる気持ち

問4 傍線番号(5)「一種の利己心」とあるが、これはどういうことを表しているか。その説明として、最も適切なものを、次の

①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

7

- ① 母に気持ちよく日々を過ごしてもらうことで、自分や妹のために高価なものを買ってもらおうとしていること
- ② 一人で気ままに生活している負い目を、母や母の子供のものを買わせることで軽減しようとしていること
- ③ 姉妹のなかで、自分だけが母をないがしろにしていると思われるのを避けようとしていること
- ④ 白木屋で、母の好きなものや母の子供のものを買ってあげる行為に、自己満足を感じていること
- ⑤ 母のものを買ってあげるといふ親孝行な行為をすることで、母が感謝するはずだと思っていること

問5 傍線番号(7)・(8)・(10)・(12)・(14)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

8
 12

(7)

ダ|メ
 8

- ① タイ|ダ|な生活を送る
 ② ダ|ガツ|キの練習をする
 ③ 半|分|でダ|キョウ|ウする
 ④ ダ|ガシ|を買う
 ⑤ す|つ|かりダ|ラク|する

(8)

ヨウ|チ|エン
 9

- ① 人|員|をハイ|チ|する
 ② チ|ジ|ョクを受ける
 ③ チ|セツ|な考え
 ④ デン|チ|を直|列|につなぐ
 ⑤ 遠|いチ|スジ|にあたる

(10)

シヨ|ウ|チ
 10

- ① コウ|シヨ|ウな趣味の持ち主
 ② シヨ|ウ|ゾウ|ガを描く
 ③ シシ|ヨ|ウに弟子入りする
 ④ キシヨ|ウ|転結を整える
 ⑤ 文|明|ハツシ|ヨウ|の地

(12)

ナグ|サ|める
 11

- ① イ|ニ|ン状を提出する
 ② 退|職|をイリユウ|する
 ③ イ|ダイ|な結果を残す
 ④ イ|シツ|ブツを保管する
 ⑤ ケン|イ|におもねる

(14)

ゾウ|ニ
 12

- ① ゾウ|キ|バヤシ|の中を歩く
 ② ゾウ|ケイ|が深い
 ③ ほめ|ら|れてゾウ|チョウ|ウする
 ④ ゾウ|オ|の念を抱く
 ⑤ ゾウ|ト|ウ品を選ぶ

問6 傍線番号(11)「お母さんも大分変わったな。」とあるが、光子がどのように思った母は、以前はどのような人物であったと

推測できるか。母の人物像として、あてはまらないものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

13

- ① 約束していた外出を光子の遅刻で当日に取りやめるようなところのある人物
- ② 人ごみや外出が嫌いで家に引きこもっている気難しいところのある人物
- ③ 気の利いた品のよい会話やおもしろい言い回しができる頭の回転がはやい人物
- ④ 義理の娘である光子には優しい言葉をかけることが少なく不機嫌なことが多い人物
- ⑤ 自分の好まない状況になっても不平や不満などはほとんど口にしない辛抱強い人物

問7 傍線番号(13)「一旦乗り上がった波がまたズドンとくだけ落ちるような気持ちを感じた」とあるが、これはどういうことを

表しているか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

14

- ① 外出前には母を身近に感じていたのに、買物中のちょっとした反応から母に無視されていると気づいたということ
- ② 母の機嫌がよくなってきたのに、それがにわかによくなくなるはずはないと不安になってしまったということ
- ③ やつと母のものを買ってあげられると思ったのに、結局母は何にも興味を示さず光子の思いに鈍感だったということ
- ④ 母に買物をさせるという光子の願いが叶いそうだったのに、それが母の一言で一瞬にして崩れたということ
- ⑤ 光子は母と仲直りできると期待していたのに、母は買物につきあうふりをしているだけだったと悟ったということ

問8 文章中から読みとることのできる光子と母の関係について、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしな

さい。

15

- ① 母が継子の光子に優しくすることはまれだったが、光子は母の機嫌を気にしている自分を淋しく思っている
- ② 義理の間柄とはいえ、母が光子にだけは厳しく接し、妹たちには甘いことに対して、光子は不満を募らせている
- ③ 母の愛情を得たい光子は母にショールをプレゼントしたが、母は身につけてもくれず光子に冷たくしてきた
- ④ 長い間心の通わない間柄であったが、白木屋での食事をきっかけに、光子と母のわだかまりは解消した
- ⑤ 母のものを買ってあげたいという光子の自分のことしか考えていないという本心を、母はきちんと見抜いている

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

日本人とは、日本人とは何かという問いを、頻りに発して倦むことのない国民である。今その問いと答えの歴史を詳しく省みる暇はないが、ここではその歴史が宣長と国学にはじまり、殊に明治以後に著しいとだけいっておこう。日本人とは何かという問いが繰り返されるのは、日本人であることが、何を意味するのか、はつきりしないからにちがいない。なぜはつきりしないのだろうか。

たとえば独仏両国民はお互いに相手をみている。相手を観察するばかりでなく、相手の眼のなかに映った自分の姿を観察することに歴史的に慣れている。他人の眼はこの場合に、自分自身が何であるかを知るための鏡だ。鏡は歪んでいるかもしれないし、当方の全身を映してはいないかもしれない。しかしとにかく当方の姿を映すことにまちがいはない。国境を接する他国民を観察し、その結果と比較することによって、自分自身の定義が容易になるだろうという話ではない。それは知的な客観的な問題にすぎない。それよりも前に、もし他人の眼のなかに自分を映す鏡を見出すことができないとすれば、どこに自分自身の姿を客観化する動機があるだろうかということである。自己を観察するのは、他人を観察するのはちがう。私はこういう人間であるという結論に私が到達した瞬間に、その結論は必然的に誤りとなるだろう。

(3) 私はこういう人間ではなく、私がこういう人間であると考える人間だからである。しかし実は、そういった瞬間に、私は、もはや私がこういう人間であると考える人間ではなく、私がこういう人間であると考えた瞬間に、その結論は必然的に誤りとなるだろう。従って二つの観察の結果を比較することもできないだろう。比較の問題がおこるまえに、他人の眼のなかで「私」自身が客観化されていなければならないということになる。しかし日本国民は他国民の眼のなかに自己の姿を読むことができなかった。いかなる他国民も日本を見てはいなかったからである。しかしそれだけならば問題は簡単であり、日本側でも相手をみていないかぎり、日本人とは何かという問いそのものが生じないだろう。日本人以外の人間と一切関係がないときに、日本人とは何かということは意味をなさない。問題は日本人が絶え

ず外を見て来たと同時に、外からは見られていなかったという一方的関係によって生じる。中国と日本との関係は、ながい間独
仏の関係のように相互作用を含むものではなかった。西洋と日本との関係もまた同様である。文化は一方的な方向へしか流れて
いない。ということは、鎖国を解いた日本が異常な注意を集中して西洋をみつめてきたということであり、逆にその西洋のなか
に映じた日本の姿は、平和なときには安い罐詰かんづめを売る商人、いくさの時には神風特攻隊のソウジュウ者、過去にさかのぼっては、
たかだか江戸時代の版画のコウミョウな素描家にすぎなかったということである。その程度のことから東西文化の交流について
喋るしゃべるのは、よほど専門的な熱意でもないかぎり、トウテイまじめにできることではない。しかし西洋に対する強い関心は、翻つ
て思うに日本とは何かという問いをよびまわすにはいい。すなわち反省がはじまるのである。反省によって決定的な答えの
えられぬ以上、同じ反省は各時代毎に繰り返される他はなかった。むろん個人の「私」と一国民の「われわれ」とでは、事情の
大いにちがうところがあるが、根本の原則に変わりはないのである。

決定的な答えのえられぬことが、10な方法をいよいよ精密にした。外国にくらべて日本ではどうか。日本ではこういう
不都合があるが、外国ではどうなっているか。こういう問いを老幼男女が日夜絶えまなく検討したあげく、たとえば英国にくら
べると、日本にはながい民主主義的伝統がないというようなことがわかってきたのである。もしそういうことがわかっただけで
は、勇気も挫くじけがちだと思えば、インドにくらべると、日本ははるかに進んだ工業国であるということもわかってきた。そうい
うふうにしてわかってきたことは、数限りない……それをここで繰り返すわけにはゆかない。私はただジャッカンの例をあげる
ことにしよう。

たとえば長い歴史を顧みて、日本人は音楽家であるよりむしろ美術家であったといえそうである。美術家としての日本人は、
絵画・彫刻・建築・造園また各種の工芸のあらゆる領域にわたって、中国の強い影響を受けながらも、独特の境地をきりひらき、
固有の様式を洗練した。もとより昔の美術を論じるときには、保存の度合どあいを考慮に入れなければならぬし、今残っている美術
品が貧しくても、ただちにその国のその時代が貧しかったということではできない。しかしとにかく現在知られているかぎりにお

いて、京都と奈良を中心とする日本は、世界中に類の少ない美術の国である。その質において、その量において、建築から工芸・衣裳いしやうに及ぶその拡がりにおいて、また千年以上に及ぶその連続の長さにおいて。これは単に保存が比較的よく行われてきたというようなことではない。造型美術に対する感覚に民族固有の鋭さがあつたとしか考えられないことであろう。私は日本人がすぐれて美術家であるという。しかしすぐれて文学者であるとか、詩人であるとか、いうつもりはない。すぐれて文学者でない民族は、むしろ少ないと思うからだ。固有の生活があり、風俗習慣があり、氣候風土があり、文化があるところには、必ず固有の文学がある。言葉と生活に直接にむすびついたこの自己表現の結果を、他の言葉や他の生活を前提としている他の文学と比較することは困難である。たとえばイリヤ・エーレンブルク氏（註）がソ連の文学のなかでいちばん優れているのは詩だといったときに、ロシア語を知らない私は成程という他はなかつた。⁽¹³⁾私が日本語の詩をもち出したとしても同じことになつたであろう。エーレンブルク氏と私はロシア語でも日本語でもなく、フランス語で話していたからである。もし他国との比較が問題であるとすれば、詩文はあきらかに適当な領域ではない。

しかしまた、民族あるいは国民を大別して、ある種の国には形而上学的（14）・神秘的な思想の栄える傾向があり、他の国には經驗主義的・實際的な思想の栄える傾向があるということもできるだろう。ものの考え方を中心としていえば、日本人はあきらかに第二の型に属すると思われる。外来の宗教または哲学を直接の背景としないで、この国に、形而上学的思考の發展した例や、神秘思想の育つた例はない。日本思想を代表するのは、実践的な倫理や政治思想である。あるいは技術に結びついた美学であろう。日本人の精神構造は、まず非超越的な原始宗教を背景として成立したにちがいない。後から来た仏教の超越的な面は、日本の人口の大部分において、その精神構造を根本的に改造するまでには到いたらなかつたと私は考える。仏教が日本へ入つて来て、変わったのは日本人ではなく、仏教であつた。⁽¹⁵⁾ 宗教の問題そのものは、この小論の範囲を超えるが、日本人の思想の實際的・經驗的な面に傾く強い傾向の歴史的な背景をもとめるとすれば、どうしても宗教殊に仏教の問題にゆく他はない。ここではただその要点をシサしておきたいと思ふだけである。⁽¹⁶⁾

とにかく造型的な感覚の鋭さと、ものの考え方の日常生活に則して經驗的であるという著しい傾向と、その二つの条件のもと

に、たとえば日本人と「自然」¹⁷⁾との独特の関係が生じたといえるだろう。『万葉集』の歌人から、日常生活のあらゆるところに花を飾る現在の娘たちに到るまで、「自然」との親近（または「なじみの深さ」というべきか）をこれほど広くその文化のあらゆる段階に示している国民はない。地震と台風が外国では有名であるが、少なくとも日本の文化の長い歴史がつくられた地方、京都と江戸の間には、南国の沙漠の激しい太陽もなければ北国の吹雪につつまれた長い冬もない。自然は本来怖るべき相手でもなく、闘うべき敵でもない、むしろ親しみ易い友だちであり、不都合といえは「男心」のように、（または女心のように）気まぐれだということにすぎなかった。そこに一種の自然宗教（おそらくシャーマニズム、アニメィズム¹⁸⁾、また多神教に似た神道の源流）があったのだ。この宗教に超越的な面がないということは、感覚的、または日常経験的世界が、唯一の世界であり、唯一の現実であるということだ。その感覚的なものの全体が「自然」であり、その経験の行われる舞台が「自然」である。すなわち日本人の「自然」は、超越的宗教の神のように、唯一にして、¹⁹⁾遍在し、それによって人間を人間たらしめる根拠だといえるだろう。

（加藤周一『日本人とは何か』による）

（注）イリヤ・エーレンブルク（一八九一～一九六七）——ソ連の作家で、『雪どけ』『パリ陥落』などを著した

問1 傍線番号(1)・(8)・(14)・(18)・(19)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ

つ選びマークしなさい。

16

20

(1) 省みる

16

- ① もう一度見る
- ② 振り返る
- ③ 心にかける
- ④ 後世に伝える
- ⑤ 行いを反省する

(8) 翻つて

17

- ① もう一方の側から
- ② 連想して
- ③ 事実とは裏腹に
- ④ 一巡して
- ⑤ 改心して

(14) 形而上学

18

- ① 目的や意図をもって複数の人間がかかわり合う形式を研究する学問
- ② 宗教一般の存在意義や本質あるいはあるべき姿を究明する学問
- ③ 思考や直感により事物の本質や存在の根本原理を究めようとする学問
- ④ 神話の発生や変化、その法則などを明らかにしようとする学問
- ⑤ 民間伝承から自国の生活文化の歴史を再構成しようとする学問

(18) アニミズム

19

- ① 特定の動物を神の使いとして信仰対象とする宗教の形態のひとつ
- ② 巫女^{みこ}を介して霊的存在と交渉を行う宗教の形態のひとつ
- ③ ただ一つの神だけを信仰対象とする宗教の形態のひとつ
- ④ 人間や自然を超えた存在すべてを否定する宗教上の立場のひとつ
- ⑤ あらゆる事象に精霊が宿るとする宗教の形態のひとつ

(19) 遍在

20

- ① ただ一つのものとして存在すること
- ② 一カ所にまとめられて存在すること
- ③ 広くゆきわたって存在すること
- ④ 空気のように広がりながら存在すること
- ⑤ 多様なものがいりまじって存在すること

問2

傍線番号(2)「自己を観察するのは、他人を観察するのとはちがう」とあるが、これはどういうことか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

21

- ① 自分の眼で客観的にありのままの姿をみている他人は観察が容易で分析もしやすいが、他人の眼を鏡としてそのなかに映し出された自分は歪められているので、自己の姿を観察したり分析したりすることが困難であるということ
- ② 最初から客観的な存在である他人は観察と分析をしてどういう人間かの結論を出せるが、自分に対する観察という行為からは、自己像に関する思考が無限に繰り返され、自分がどういう人間であるかの結論が出せないということ
- ③ 自分は強い関心をもっているので他人に注意を集中して観察することができるが、他人はあまり自分に関心をもつてくれないため、他人の眼に映し出される自分は不完全で、観察しても自己像を確立することができないということ
- ④ 自分の眼に映った他人をほかの人の眼に映った他人と比較して観察することはできないが、複数の相手の目に映し出された自分を比較して観察することはできないため、自身がどういう人間であるかの定義が容易にできるということ
- ⑤ 自分の眼に映った他人を観察してどういう人間であるかの結論が出た場合にはその結論は変わらないが、自分を観察してこういう人間であるという自己像を確立すると定期的に修正や調整を加えることができるということ

問3 空欄番号

(3)

(10)

(15)

に入る語句として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ

一つずつ選びマークしなさい。

22

24

22 (3)

① なぜなら
② ところが
③ それでは
④ しかしながら
⑤ こうして

23 (10)

① 伝統的
② 全面的
③ 総体的
④ 統計的
⑤ 比較的

24 (15)

① しかしながら
② およそ
③ もちろん
④ とにかく
⑤ おそらく

問4

傍線番号(4)「文化は一方的な方向へしか流れていない」とあるが、これはどういう意味か。その説明として、最も適切な

ものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

25

- ① つねにより優れた文化から劣った文化へと一方的に流れる傾向にあるということの意味する
- ② 文化はみられてるものからみているものへと一方的に流れる傾向にあるということの意味する
- ③ 文化が発展する方向性は決まっておりどの国も同じ方向へと向かっているということの意味する
- ④ 文化はながい伝統のある国から伝統のない国へと一方的に影響を与えるということの意味する
- ⑤ 文化は関心の強いものから関心の弱いものへと一方的に影響を与えるということの意味する

問5 傍線番号(5)・(6)・(7)・(11)・(16)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

26
30

(5) ソウジユウ

26

- ① ジユウジツした一日を送る
 ② 反対者をカイジユウする
 ③ クジユウの決断をする
 ④ ジユウオウ無尽の活躍
 ⑤ ジユウギョウインを解雇する

(6) コウミョウ

27

- ① ギコウをこらす
 ② 契約をコウシンする
 ③ コウテイ的な意見
 ④ 細かなことにコウデイする
 ⑤ コウセキをたたえる

(7) トウテイ

28

- ① リョウテイで食事をする
 ② 自著をシンテイする
 ③ テイヘンの長さを求める
 ④ まちがいをテイセイする
 ⑤ 条約をテイケツする

(11) ジャツカン

29

- ① なごやかにカンダンする
 ② 物語がカンケツする
 ③ 室内のカンキを促す
 ④ 母国にキカンする
 ⑤ 沼地をカンタクする

(16) シンサ

30

- ① 偽証をキョウサする
 ② 学歴をサシヨウする
 ③ 関係者をサモンする
 ④ 道路をフウサする
 ⑤ 職人をサハイして普請する

問6 傍線番号(9)「個人の『私』と一国民の『われわれ』」では、事情の大いにちがうところがある」とあるが、何がちがうの

か。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

31

- ① 個人の「私」は取るに足りないちっぽけな存在でも、日本国民として「われわれ」が何者であるかを常に問いかける価値があったということ
- ② 個人の「私」はこういう人間であると簡単に主張できるが、日本国民である「われわれ」は他国民に観察されなければ自分を観察できないということ
- ③ 個人の「私」は他人の眼のなかの自分を観察しうるが、日本国民である「われわれ」は外国から軽視されてきたので他国民の眼に映った日本人を観察できなかったということ
- ④ 個人の「私」は他人の眼を通して自分を観察するしかなかったが、日本国民である「われわれ」は外国と精密な方法でくらべることができるということ
- ⑤ 個人の「私」は反省することによって答えを得ることができるが、日本国民である「われわれ」は反省から答えを得ることができないということ

問7 傍線番号(12)「美術家としての日本人」の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

32

- ① 中国の影響を取り込みつつも、民族固有の鋭い感覚により独自の美術を発展させた
- ② 千年以上に及ぶ年月に渡って、中国の影響のもとに美術を発展・洗練させた
- ③ 現存している美術品は貧しいが、かつては世界でも稀まれな美術の国を実現させた
- ④ 造形美術に対する鋭い感覚をもち、絵画・造園・詩歌などに優れた才能をみせた
- ⑤ 千年以上の長さをもとめない、卓越した保存の技術をもっていることで知られた

問8 傍線番号(13)「私が日本語の詩をもち出したとしても同じことになったであろう」とあるが、これはどういうことか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

33

- ① エーレンブルク氏と私は、フランス語で会話していたため、適切な言葉が見つからなかったということ
- ② 日本は美術の国であるかわりに、詩などの文学には飛びぬけた鋭い感覚はもたないということ
- ③ 日本語の詩を理解するための言葉と生活をもたない相手には、詩の普遍性を理解するのは不可能だということ
- ④ 文学や詩は生活・文化などと関係しているため、相手の文化批判につながりやすく、議論に向かないということ
- ⑤ 文学の理解には、固有の生活や文化への理解が必要であり、異国間の文学の優劣は論じられないということ

問9 傍線番号(17)「日本人と『自然』との独特の関係」とあるが、どのようなものか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

34

- ① 時折、地震と台風という荒々しい一面をみせ、それに対し人々は畏敬の念を抱いている
- ② 少し気難しいが、あたかも長年付き合ってきた友人のような親しみを感じている
- ③ 万葉集の時代から現在に至るまで、そのときどきで異なる親近感を抱いている
- ④ どの場面にも自然に対して親しみを伴っており、それが人間らしい生き方だと感じている
- ⑤ 日本で暮らす人々にとっても、南国や北国でみられたような厳しさを自然に見出している

問10 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

35

- ① 日本人の精神構造は、仏教の伝来によって、それ以前の日本人とは大きく変わっていった
- ② 日本人とは何かという問いが繰り返されるのは、国家が国民に日本人であることを強く求めてきたからである
- ③ 自己を客観視するためには、できるだけ自己を観察することと、自分を見てくれる相手が必要である
- ④ 日本人は、長い歴史のなかで中国や西洋に比して美術に対する感覚に独自性を育んできた
- ⑤ 日本国民と他国民の一方的な関係が、日本に西洋への強い関心を抱き続けさせた原因である

第三問 次の文章は『落窪物語』の一節である。少将は乳母子めのとこ（乳母の子ども）の帯刀から、落窪の君の話を聞いて興味を持ち手

紙を送る。これを読んで、後の問いに答えなさい。（20点）

かくて、少将（1）言ひそめ給ひてければ、又御文すすきにさしてあり。

ほにいでて言ふかひあらば花すすきそよとも風にうちなびかなん

御返りなし。しぐれいたくする日、

（2）さも聞きたてまつりし程よりは、ものおぼし知らざりける。

とて、

雲間なき時雨の秋は人恋ふる心のうちもかき暮らしけり

御返りもなし。又、

天の川雲のかけはしいかにして踏みみるばかり渡し続けん

日々にあらねど、絶えず言ひわたり給へど、絶えて御返りなし。

「いみじうものつつましきうちに、かやうの文もまだ見知らざりければ、いかに言ふとも知らぬ（3）にやあらん。もの思ひ知り

げに聞くを、（4）などかははかなき返り事をだに絶えてなき。」

と帯刀（5）にのたまへば、

「知らず。北の方（5）のいみじく心あしくて、我がゆるさざらん事つゆにてもしてはいみじからん、と明け暮れおぼいたるに、お

ちつつみ給へる、となん聞き侍る。」

と申せば、

「我をみそかに。」

と言ひわたり給へば、わが君の御事を否びがたくやありけん、（6）いかでと見ありく。

十日ばかりおとづれ給はで、思ひいでてのたまへり。

日ごろは、

かき絶えてやみやしなましつらさのみいとどますだの池の水草

思ひたまへしのびつれど、さてもえあるまじかりければなん。人知れず、人わろく。

とあれば、帯刀、

「このたびだに御返り聞こえ給へ。しかしかなんの給ひて、『心に入れぬぞ』とさいなむ。」⁽⁷⁾

と言へば、あこき、^(注5)

「まだ言ふらんやうも知らずとて、いとかたげに思ほしたる物を。」⁽⁸⁾

とて、まゐりて見たてまつれど、中の君の御をとこの右中弁とみにていで給ふ、うへのきぬ縫ひ給ふほどにて御返りなし。

(『落窪物語』による)

(注1) 少将——右近の少将。物語の男主人公である

(注2) 帯刀——少将の乳母子。落窪の君の侍女であるあこきと夫婦であることから、少将が姫君のことを知ることとなった

(注3) 北の方——落窪の君の父である中納言の正妻。落窪の君の継母

(注4) おぢつつみ——怖れ、遠慮すること

(注5) あこき——落窪の君の侍女

(注6) 中の君——中納言の次女。落窪の君の異母姉妹

(注7) 右中弁——中の君の婿

(注8) うへのきぬ——男子の正装のときの上着

問1 傍線番号(1)・(3)の文法的説明として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

い。

36

37

(1) 給ひてければ

36

- ① 謙讓の補助動詞＋完了の助動詞＋過去の助動詞＋接続助詞
- ② 謙讓の補助動詞＋完了の助動詞＋詠嘆の助動詞＋接続助詞
- ③ 尊敬の補助動詞＋完了の助動詞＋過去の助動詞＋接続助詞
- ④ 尊敬の補助動詞＋完了の助動詞＋詠嘆の助動詞＋接続助詞
- ⑤ 尊敬の動詞＋完了の助動詞＋過去の助動詞＋接続助詞

(3) にやあらん

37

- ① 断定の助動詞＋間投助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋意志の助動詞
- ② 断定の助動詞＋係助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋推量の助動詞
- ③ 断定の助動詞＋係助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋打消の助動詞
- ④ 打消の助動詞＋係助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋推量の助動詞
- ⑤ 打消の助動詞＋間投助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋意志の助動詞

問2 傍線番号(2)「さも聞きたてまつりし程よりは、ものおぼし知らざりける」とあるが、誰が「もの」を「おぼし知ら」ないのか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

38

- ① 少将
- ② 帯刀
- ③ 落窪の君
- ④ あこき
- ⑤ 中の君

問3 傍線番号(4)「などかははかなき返り事をだに絶えてなき」の口語訳として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

39

- ① どうして弱々しい声だけでも聞かせてくれないのか
- ② どうして病気で弱っているのに連絡がまったくないのか
- ③ どうしてつまらないからといって返事もないのか
- ④ どうして少しでも声を聞かせてくれないのか
- ⑤ どうしてほんのわずかな返事さえないのか

問4 傍線番号(5)・(6)はどういうことを表しているのか。その説明として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれ

ぞれ一つずつ選びマークしなさい。

40

41

(5) いみじく心あしくて

40

- ① 北の方の心臓の具合が大変悪いということ
- ② 北の方の機嫌がとも悪いということ
- ③ 北の方の性格がたいそう悪いということ
- ④ 落窪の君の気分がすぐれないということ
- ⑤ 落窪の君の印象が大変悪いということ

(6) いかでと見ありく

41

- ① あこきが、少将から落窪の君を守るために、手紙を届けないようにすること
- ② あこきが、少将と落窪の君を何とかして逢あわせたいと奔走すること
- ③ 帯刀が、落窪の君に直接花すすきを渡したいとさまざまな手段を講じること
- ④ 帯刀が、落窪の君に逢あいたいという少将の願いを叶かなえたいと機会をうかがうこと
- ⑤ 帯刀とあこきが、少将と落窪の君を逢あわせるために協力して策を練ること

問5 傍線番号(7)・(8)の口語訳として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

42

43

(7) このたびだに御返り聞こえ給へ

42

- ① せめて今回だけでもお返事を申し上げなさいませ
- ② やはり今回もお返事を申し上げなさいませ
- ③ せめてもう一度お返事を申し上げなさいませ
- ④ やはりもう一度お返事を申し上げなさいませ
- ⑤ 今回もそのようにしてお返事を申し上げなさいませ

(8) いとかたげに思ほしたる

43

- ① たいそう困難なことだと思いいになる
- ② たいそう決心がかたいようだと思いいになる
- ③ たいそう強情なことだと思いいになる
- ④ たいそう意固地なことだと思いいになる
- ⑤ たいそうしっかりしているとと思いいになる

問6 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

44

- ① 少将の手紙が強引なので、落窪の君は返事をためらっている
- ② 北の方は、落窪の君に近づこうとする少将を妨害しようとしている
- ③ 少将は、一日も欠かさずに落窪の君に手紙を送り続けている
- ④ 落窪の君は、右中弁の着物を縫っていたので一度も返事ができずにいる
- ⑤ 少将は返事がもらえずにいる辛さを、増える水草になぞらえている

問7 本文の出典である『落窪物語』と同時期に成立した作品を、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

45

- ① 古今著聞集
- ② 平家物語
- ③ 宇津保物語
- ④ 宇治拾遺物語
- ⑤ 太平記